

《目的》

- 1) へつぎ病院における医療安全、感染管理の基本を知り、日常業務で実践できる。
- 2) へつぎ病院で取り扱っている医療機器の使用が安全に行える。
- 3) 記録看護基準にそった記録ができる

《対象者》

2019 年度 4 月以降入職した看護師・介護士・ケアアテンダント

《研修コース》

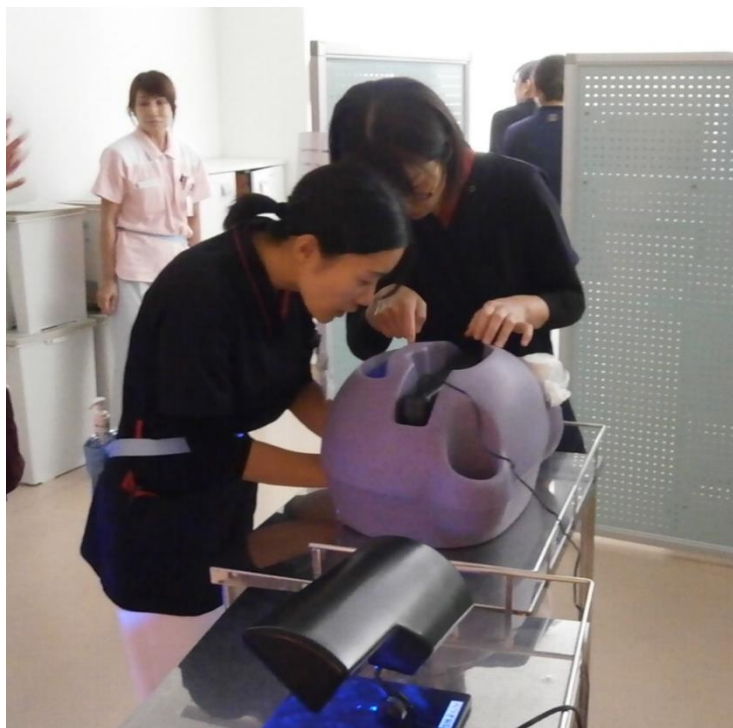
リ・スタート研修（6 時間コース）

《研修プログラム》

* 介護士・ケアアテンダントは、医療安全、感染管理のみ参加とする。

日程	テーマ	内容	担当
8:50～	オリエンテーション	研修スケジュールの説明	看護科長
9:50	看護必要度（60 分）	正しい評価方法、根拠ある記録	看護主任
9:50～ 10:50	医療安全（60 分）	医療安全対策の基本的知識 事故防止、発生時の対応 マニュアル類の確認	医療安全管理室
10:50～ 12:30	感染管理（100 分）	標準予防策 おむつ交換のベストプラクティス	感染管理室 感染チーム会
休憩 12:30～13:30			
13:30～ 14:30	看護記録（60 分）	看護記録基準について	看護科長
14:30～ 15:30	輸液ポンプ（60 分）	輸液ポンプ、シリンジポンプの 取り扱い	院外講師

《研修の風景》



「そこっ、そこが洗い残しです。」
「指の間が、残ってますね。日頃から
その部分に気をつけて手洗いをし
ましょう。」

「オムツ交換は、清潔・不潔の役割をはっきりしましょうー。」





輸液ポンプの取り扱いについては院外講師の研修を受けます。正確なメカニズムの説明があります。



他職種の力を借りて、安全に機器の取り扱いができるようになります。

この真剣な表情が、とても頼もしいですね。



《参加した中途採用者の声》

【看護師の声】

- ・前施設で評価することがなかった看護必要度について、ここで初めて学ぶことができた。
- ・看護必要度を正しく評価する為に、実際行ったケアを具体的に記録に残す必要があることを学んだ。
- ・医療安全では、患者誤認防止を確実に実施する必要性を学んだ。
- ・人は誰でも間違えるという人間の特性を理解し、確認方法を遵守することの大切さを学んだ。
- ・看護師は最終行為者になることが多い為、マニュアルの再確認をして実施していきたい。
- ・感染管理は、手洗いチェッカーを使い自分の手洗いの不十分な部分が、明らかになった。
- ・オムツ交換のベストプラクティスは、実際に行うことで不十分なところが認識できた。
- ・今まで当たり前に使っていた略語が、記録として使用できないと知った。正しい日本語で記録していきたい。
- ・記録は要点をまとめて簡潔に書くことが大切であると学んだ。
- ・輸液ポンプ・シリンジポンプを実際に使用できたので、よく理解できた。

【介護士の声】

- ・看護師のように患者への影響が大きい業務はないが、褥瘡予防、移乗時など、改めて安全確認の大切さを考えることができた。
- ・病院で働いていると感染しやすいと考えていたが、しっかりと感染予防対策を徹底すれば防ぐことができると分かった。

【アアテンダントの声】

- ・患者の名前など確認をきちんと行い、事故のないように気を付けたい。
- ・おむつ交換の研修は、とても勉強になり自信をもってできると思う。

《研修全体を通しての感想や要望》

- ・研修会に参加し、へつぎ病院のやり方や決まり事がよくわかって良かった。今日からの仕事に活かしていきたい。
- ・定期的にこのような研修が開かれると、振り返りの機会となって安心できると思う。
- ・参加して良かった。もっともっと知りたいと思ったので、定期的にこのような研修をして欲しい。

《研修企画者の感想》

- ・現状の実施時期や回数では、不足していることが感想より明らかになった。へつぎ病院の職員として早期に適応できるよう、企画を見直していきたい。